



横浜陶芸友の会だより

第 177 号

令和 2 年

9 月 1 日発行

『第 42 回作品展』に向けて

横浜陶芸友の会 会長 高橋光男

今年の夏は例年になく暑い毎日が続いていますが、いかがお過ごしですか。

コロナ禍によって「総会」「発表会」等の開催があらちちらで中止になっていく現状の中、会員の皆様には「総会」については書面表決をお願いいたし、全員から了承していただきありがとうございます。

「作品展」につきましては、「作品展アンケート」の報告の基に 8 月 21 日（金）20 時から各部代表の方と WEB 会議（ZOOM アプリ利用）を行いました。

いろいろな意見が出ましたが、「新型コロナウイルス感染拡大防止策」に万全を期して開催することにいたしました。

会場設営は、最小限の役員で行い出品者は通勤時間帯が終った頃（10 時～11 時）の集合とし、当日は受付、展示物の配置、コロナ感染防止用品等の配置、使用方法確認など行い万全を期して、お客様を迎えることを考え

ています。

新型コロナウイルス感染状況によっては再度 WEB 会議を開催して、その場で決定いたします。

各々が確固たる思想をもって慎重にかつ静かに、それでいて陶芸の熱は絶やさず強く、コロナ禍で一時遠くなってしまった作陶を通して起こる「それぞれの美」を、今一度呼び起こして「作品展」に皆様方からの多数出品をお願いいたします。

みなさまのご協力で、『作品展』を盛り上げましょう！

総務部より

「総会の報告」

- 令和元年度決算報告
- 令和 2 年度予算（案）
- 令和 2 年度役員（案）

・ 3 件の案件を会報 176 号で「書面表決」をお願いいたしました（7 月 25 日締め）

《集計結果》

○書面、メール、電話で返信

19 件 すべて賛成



「秋期焼成会」日程

- 9 月 27 日（日）10 時 受付
- 10 月 11 日（日）10 時 釉掛け
- 10 月 18 日（日）10 時 引渡

場所…技能文化会館

なかなか終息に至らないコロナですが、十分な安全対策を講じながら予定通り、左記日程にて秋期焼成会を行います。

専修部より

☆今後コロナ感染症防止対策により地区センター等の利用が困難な場合には、WEB 会議（Zoom アプリ利用）で役員会開催を考えなくてはいけませんので、アプリのダウンロード（パソコン、スマホ、タブレット等）をお願いいたします。

ダウンロード等に不明の方は高橋光男 まで連絡下さい。

上記 3 件はすべて了解されたものとして（案）を削除し、実行いたします。今後ともよろしくお願いいたします。

○会員数 37 名 全員賛成（可決）

※書面返信なし（書面決議書に返信がない場合は賛成とみなす旨記載） 18 名（賛成とみなす）

注…参加者は、必ずマスク着用でお願いいたします

事業部より

○第 42 回「作品展」開催日 決定

(期日) 令和 3 年 1 月 12 日(火)～17 日(日)
(会場) 「かなつくホール」 3 階 A 室

(特設コーナー) 課題は「片口」です。

※名前プレートを準備するために、「作品展
参加申し込み」の時点で特設コーナーへの
参加意思を必ずお書きください。

☆「作品展」の詳細については次回 11 月号
発送時に同封いたします。

「作品展アンケート」の報告

今年度の「作品展」についてのアンケート
にご協力いただきましてありがとうございます
しました。(回答者数 25 名でした)

一、今年度の「作品展は」?

①中止する (8 名)

・参加者は、ほぼ全員高齢者であり、また、
お客様に対し離れた対応は難しいと思う。
・現状では無理・難しいと思う。(3 名)

②開催する (15 名)

・今まで毎年行ってきたので、続けたい。
・コロナも 1 月ごろには大分収まっているの
ではないでしょうか?

・作品展も無い。役員会も無い。では、会
の存続にかかわる。

・各自、コロナ対策を万全に行い開催出来た
ら・・・と思っております。

・など、6 名の方からご意見がありました。

③無回答 (2 名)

※どちらにも ○ がついていない方

二、1 月に開催した場合、作品は?

「出展」①できる (16 名)

・例年より少なくなると思うが、頑張つて
作りたい。

・まだ作品ができていませんので何とも言え
ませんが、気持ちとしては参加したい。

・など、5 名の方からのご意見がありました。

「出展」②できない (8 名)

・最近は何も作陶していません。これからも
できないと思います。

・現在、作陶の意欲と時間がない。

・など、4 名の方からご意見がありました。

三、「作品展」に関する、ご要望

○ 16 名の方からありました。

・これからも続けて頂きたい。

・参加者も少なくなってきたので、作者の
苦労話など聞けたらと思います。

・開催の実現につきましては、コロナの状況
や作品展の可能人数など総合判断に委ねます。

・次回には参加したいです。

・次回は参加したいです。

※まだコロナが気になります。

※全部のご意見は掲載できませんので詳細に

については会長・副会長・各部長に報告してあ
ります。詳細をお知りになりたい方はお聞き
ください。

☆このアンケートをもとに、会長主導のリモ
ート会議を会長・副会長・各部の代表で行い
ました。(8/21)

その結果、第 42 回「作品展」を開催する。

方向で確認いたしました。

ただし、コロナの状況次第では「中止」も

あり得るので、次回の「会報」発行前に再度

会議を開くことになりました。

開催するにあたってはコロナ対策にも万全

の注意を払い、計画していきます。

☆まだこれから作品を作っても間に合います。
家に眠っている作品で、未公開なら出しま
しょう。

皆さまのモチベーションを發揮し、作品展
を盛り上げましょう。

お願い

・出展する方が少ない事が予想されます。
少しでも多く作品を出展してください。
・壁面が寂しいので、作品作りの写真や
壁掛けなど多めに出示してください。
・昔の作品で、未だ出展していない作品
があれば、出展をお願いします。

『第41回 作品展』紹介②

前回は、あまり出展作品の紹介ができませんでした。今年度も「作品展」は開催できそうなので、作品を見た時の気持ちを思い出しながらご覧ください。

「今年の作品」 鈴木和子



- 「手付片口鉢」 みかげ黒土 還元焼成 白マット
- 「手付花器」「中鉢」「手付酒器」「ぐい呑(3個)」「花器」
… 信楽荒目土 穴窯焼成 自然釉
- 「豆皿(いちょう3個)」 信楽土 穴窯焼成 自然釉
- 「花器」「長皿」… 志野土 酸化焼成 織部釉
- 「豆皿(3個)」 みかげグレイ土 酸化焼成 織部釉
- 「豆皿(かにつき3個)」 志野・みかげ土 酸化焼成 織部釉



窯の中でもこの色が出るのは一箇所だけで白の色は釉薬が厚くかかっている部分です。

・特設コーナーの一輪差しにもあるこの綺麗な濃いブルーと白の作品は、黒御影土に白マット釉を厚掛けし灯油窯で強還元焼成したものです。



・この織部は二度焼きをしています。二度目は釉薬がつかないので「釉薬ポンド」を10%入れ、全体に色目が出るように掛け分けヨダレが出るように厚掛けしています。



・こちらの織部の長皿は専修部の釉薬をかけて焼成したもので、必ず二、三度は焼き直しています。

・この灰被りの花器は穴窯で焼いたもので火前に置いて、炊き上げた時は全部灰に埋もれていて出す時は半分埋まっています。



・この皿の絵は自分で書いたのではなく、お友達に教えてもらった透明釉を掛けて作りしました。



・この花を活けてある物はランプを作ろうと思っただけで、花器にもなるように穴を開けてあります。

- 「壺」 信楽赤土 穴窯焼成
- 「ランプ」 信楽赤土 青銅マット釉
- 「多用碗(大・小)」 信楽赤 黒天目釉
- 「角皿(大・小)」 信楽赤 透明釉 花柄シール
- 「はがき掛」 信楽白土 チタマット釉・乳緑釉
- 「小鉢」「ぐい呑」「箸置」「変形小鉢」
… 信楽白土 乳緑釉・青銅マット釉
- 「干支(いのしし大・小)」 信楽赤 黄土マット釉



・この壺は紐作りで形を作り取っ手を付け、教わっている先生の穴窯で焼いてもらいました。出来上がって、とても嬉しいです。



「今年の作品」

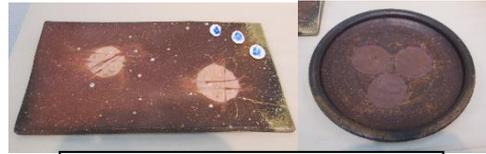
池見千枝子



けるように加工し、釉薬の濃度も細く出るように調整しました。鉛筆で下書きし、ある程度、線が引けたら焼き（700℃ちよつと）を繰り返して全部終わってから透明釉を掛け750℃で焼き、更には上絵具で色を付けています。絵は拡大して描きました。完成するまで、20回位焼いています。



○「この猫のピアスは印刷ですか？」の問いに「これは全部手書きです。」との答え。
さて『その制作方法とは』
・この線を描くのに筆では無理なので製図で使う「カラスロ」を自分で細かい線が引



「焼締角皿」 「焼締皿」
備前土 自然釉 穴窯焼成

「今年の作品」



「アクセサリー ピアス(8組)」
… 磁器土 上絵具 電気窯焼成

高橋光男



「つる付半月盛皿」 赤土 透明釉



「つる付 花入れ(小)」 鉄赤釉
「つる付 花入れ(小)」
バラ花 練込み 透明釉



「今年の作品」

鈴木早苗

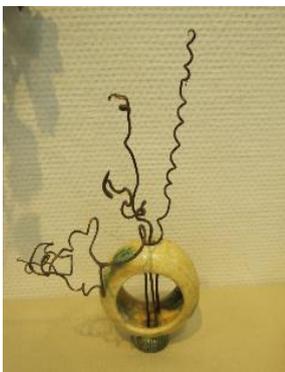
・このピアスの金色は金彩です。
下の青色は呉須ではなくルリ釉を掛けています。
その上に金彩を掛け 800℃で焼いてあります。
実はこれは温度が上がり過ぎて失敗なのでもう一度やり直し



「つる付半月盛皿」 黒土 織部釉 白萩釉

「今年の作品」

川島幸子



「豆皿」 信楽 鉄釉 透明釉 穴窯
「豆皿」 信楽赤 穴窯焼き締め
「豆皿 3点」 古信楽 穴窯焼き締め



「鉢」 益子水簸 織部釉 灯油窯
「花器」 益子赤 織部釉 唐津あめ釉 穴窯
「花器」 益子赤 粉引 象嵌 透明釉 灯油窯
「花器」 黄瀬戸 担礬 透明釉 灯油窯
「ねずみ」 益子赤 粉引 透明釉 灯油窯

・この「大鉢」は中華鍋を型にして布目が出る様にして作り穴窯で焼いたものです。温度が低い場所だったため灰があまり掛からず、気に入らなかったので模様所に織部釉を薄く掛け、灯油窯で焼き直しました。元の灰も溶け透明釉が掛かったように艶も出ました。



「大鉢」 古信楽 自然釉
織部釉 穴窯焼き締め



・「抹茶碗（鎚削）」の説明で「焼貫」という文字があります。「ヤキヌキ」と読みます。

これは、楽焼の茶碗を焼く技法で、普通は 800〜900℃で焼成する所を素焼きした茶碗を壺に入れ更に炭を入れ、途中で鉄の棒で掻き回し火の粉を上げながら 1000℃まで還元で焼成する方法です。

それに近い仕上がりに電気窯で茶碗をサヤに入れ還元をかけ 1250℃で焼成した物です。

・もう一つの「抹茶碗（筒型）」は黒天目としか書いてありませんが、実は黒チタンとの掛け分けで、下の部分はコーヒークラスをサヤに



「鉢(掛合せ)」織部 黒チタン 電気窯



「抹茶碗(筒型)」黒天目 電気窯



「抹茶碗」土灰 信楽土 電気窯



「抹茶碗(鎚削)」焼貫 電気窯

「今年作品」

吉良 謙

「さくらん坊」は透明釉を掛けましたが、「朝顔」は半透明のマットに近い「艶消し透明」の釉薬を掛けました。



彩磁皿「さくらん坊」 彩磁皿「朝顔」
... 極白 電気窯(酸化) 透明釉

・この「彩磁皿」の絵は素焼した物に描くのではなく、その前の生の状態で描きます。

絵具はドベにコバルトやマンガンを混ぜて作ります。大体 10 対 1 ぐらいかな？

塗る時は薄いので何度も重ねて塗らないと色が出ないので結構大変でした。



「角皿」信楽 穴窯焼成 自然釉
「角皿」相馬磁土 還元焼成 透明釉
「角皿」五斗蒔土 還元焼成 透明釉
彩磁皿 ①「朝顔」②「さくらん坊」
... 極白 電気窯(酸化) 透明釉
「鉢」赤信楽 還元焼成 透明釉
「鉢」黒泥 酸化焼成 白萩釉
「小鉢 2ヶ」黒泥 酸化焼成 透明釉
「片口鉢」黒泥 酸化焼成 白萩釉

「今年作品」

吉村千世子

入れて還元をかけたため出来た変化です。

・「鉢（掛合せ）」の織部には、弁柄を少し入れて深みのある緑色にしています。



「大皿」益子・青釉 登り窯「中皿」とびかん 信楽赤土
「中皿」あめ釉 信赤土

この「角・花入れ」は出す作品がないので若い時に作ったのを持ってきました。

素焼きした作品を益子に持って行き「登り窯」で焼いたものです。柿釉は私が掛けたのですが、「つまらないから何か、こういうのをやりたい」と言ったら職人さんが柄杓で青釉をシャーンと簡単にかけてくれました。

「花かご」は、一本ずつ紐を作り編みました。



「鉢」乳濁釉に弁柄 信楽白土
「手付花入れ」あめ釉 信楽赤土



「角・花入れ」益子柿釉



「花かご」焼き締め 信楽赤土

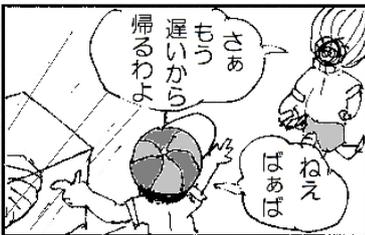
「今年作品」

徳植美和恵

陶陶さん

第 99 号

あかほし



ホームページもチェック!!

横浜陶芸友の会

検索

<http://www20.atpages.jp/tomonokai/>

横浜陶芸友の会だより
第 177 号

(令和 2 年 9 月 1 日発行)

発行人 横浜陶芸友の会

・「鐘埴さん」は、仕事で京都に行った時玄関の左右の屋根の上に鬼瓦のように乗っている



「ガラス絵」 ジャーマンアイリス

白土 色ガラス

「花活け」 黒御影 白萩釉

「置物(鐘埴さん)」 黒御影 透明釉

テストピース



「今年
の作品」

逢阪博樹

・前回コロナ禍のなか、作陶していると書きましたが、中々収まってくれない様です。長雨の後は猛暑続きで、家にとじ込もってスピーカエンクロージャーの作陶の続きを汗だくで終えました。

【編集後記】

のを見て「何だろう？」と思い調べてみたら「鐘埴」でした。怖いと言えば怖いのですがマンガチックにもなっていました。釉薬はテカテカ光り過ぎるので掛けない方が良かったかな？と思っています。

・「花活け」は白萩釉で酸化焼成です。鈴木さんの作品のような青が出たかったのですが、「マットの方が青が綺麗に出るわよ。ただ還元よ。」と言われました。還元はやったことが無いので何時か挑戦したいと思っています。

・「ガラス絵」これはケガの功名でコボレ出たのが淡い輪郭になって綺麗に出来ました。ただ色が二種類なので淡白になりました。

来春の作品展に出品出来るような仕上がりにしたいと思っております。(季楽軒)

・WEB会議で来年の作品展は、万全の「新型コロナウィルス対策」を講じて、開催する方向で決まりました。

でもまだ肝心の作品が何も出来ていない：いまだ構想中の毎日です。(大日方)

・初めて ZOOM 会議というものを体験しました。パソコンで顔を見ながら話し合う。これはこれが主流になるのでしょうか？

一ページの妖怪「アマビエ」は疫病などから身を守るための護符です。

早くコロナが終息し日常が戻るのを祈るばかりです。

「友の会」の活動を続けるためにも「焼成会」や「作品展」。

皆様、参加して盛り上げましょう。(鍋島弘義)